



「清水みなと祭り」で自衛隊をPR

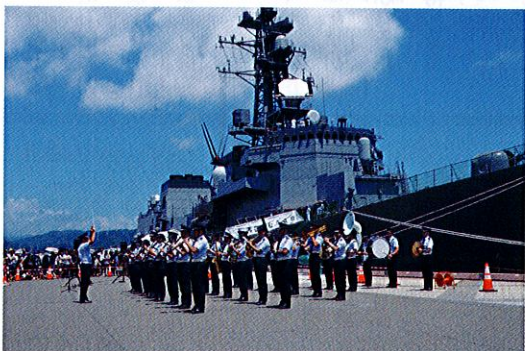
自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月5日（土）と6日（日）の2日間、清水港日の出埠頭（静岡市）で開催された「第70回清水みなと祭り」において広報活動を実施した。

「清水みなと祭り」は今年で節目となる第70回を迎え、自衛隊からは14年振りに航空自衛隊のブルーインパルスの飛行展示が実施されたほか、海上自衛隊の護衛艦「むらさめ」の艦艇公開、陸上・航空自衛隊の車両や装備品の展示、航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松基地）による演奏、T-4・T-7による飛行展示、静岡・山梨・長野の3地本と海上自衛隊横須賀地方総監部募集等支援班の広報ブース開設などを行った。普段見ることでできない陸海空自衛隊が清水港に揃い踏みし、天候にも恵まれたこともあり会場は朝早くから多くの観客で賑わい、2日間で9万人もの来場者が訪れた。

6日（日）には、中部航空音楽隊が岸壁で演奏を行い来場者の気分を盛り上げる中、ブルーインパルス6機が護衛艦の上空をスモークを出しながら颯爽と飛行し、会場全体を魅了した。

また、自衛隊の広報として声優の中村桜さんが護衛艦「むらさめ」の一日艦長を務め、艦上で就任式や来艦者の出迎えなどを行ったほか、地元FMラジオ「自衛TIME★静岡」の収録やゆるキャラグランプリに参戦中の静岡地本マスコットキャラクター「しずぼん」のPRに一役買っていた。

静岡地本は、今後もこのような地元で行われる大規模なイベントに創意工夫を凝らして積極的に参加し、自衛隊への興味や関心を更に高めるよう努めていく。



「青少年防衛講座」に学生が参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）静岡募集案内所は、8月7日（月）から9日（水）までの3日間、航空自衛隊静浜基地（焼津市）が実施した「青少年防衛講座」に参加者を引率した。

これは、同基地の第1飛行教育団が県内の児童や中学生に航空自衛隊に対する理解を深めてもらうと開催したもので、今回が初めての試みとなる。静岡地本からは、小学生13人、中学生12人、高校生27人が参加した。はじめに、操縦訓練などでパイロットを養成するために学生が初めて乗るT-7初等練習機の操縦席に乗り込み記念撮影をした後、資料館において同基地の渉外室長・志垣3等空佐がクイズ形式で防衛講座を行った。長年さまざまな航空機のパイロットとして活躍してきた経験をふまえ、戦闘機の種類などに関するクイズを出題すると、参加者は勢いよく手を上げて元気に答えていた。

午後からは、隊員が日々飛行教育支援のために勤務している管制塔や気象隊などを見学し、また、消防小隊が使用する防火衣の試着や、パイロットを目指す航空学生が日々の訓練で使用している「T-7初等練習機シミュレーター」の模擬体験飛行も行った。

参加者は「航空自衛隊はパイロットのイメージが強いが、それを支える隊員の方が多く、さまざまな場面で活躍できるやり甲斐のある職場だということが分かった」などの感想を話していた。

静岡地本は、今後もこのような実体験を通して五感で感じる事が出来る機会を積極的に活用し、自衛隊という仕事の魅力をより深く知ってもらうとともに、職業選択肢の第一希望となるよう努めていく。

